

【第1回三島病院連絡会資料 更新版】
【第1回三島医療・病床懇話会資料 更新版】

大阪府

三島二次医療圏「地域医療構想」 現状と今後の方向性

2018年7月9日

大阪府三島医療・病床懇話会

Contents

1 三島二次医療圏の概要

- (1) 今後の医療需要の見込み
- (2) 医療体制の概要
- (3) 診療実態の分析の結果

2 高度急性期から急性期(急性期一般※)の概要

- (1) 病床の現状
- (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)
- (3) MDC別診療実績の推移(DPC)
- (4) 現状と課題のまとめ

※急性期一般入院基本料 (旧7対1、10対1)

3 急性期(地域一般※)から回復期の概要

- (1) 病床の現状
- (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)
- (3) 現状と課題のまとめ

※地域一般入院基本料 (旧13対1、15対1)

4 長期療養(慢性期)の概要

- (1) 病床の現状
- (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)
- (3) 現状と課題のまとめ

5 将来のあるべき医療体制に向けて

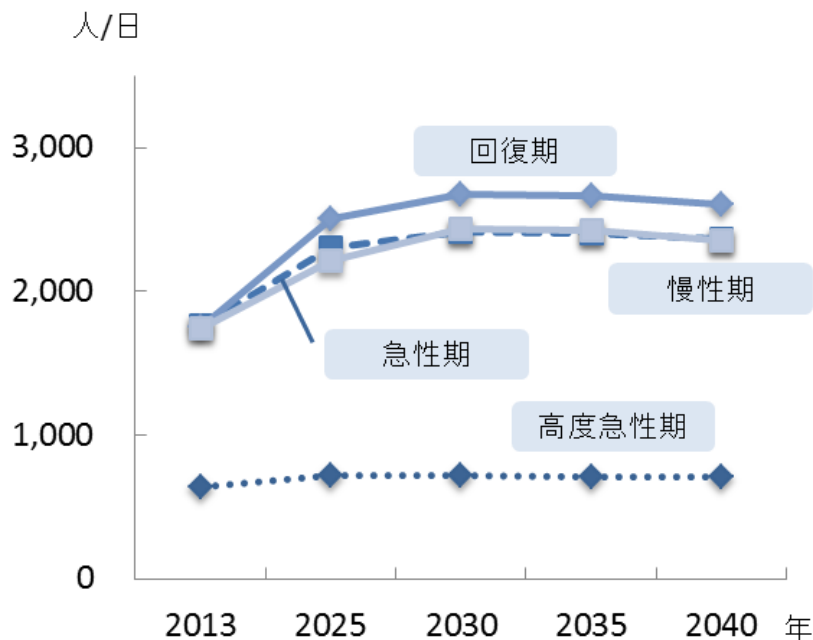
- (1) 2025年に各病院が検討している
医療機能・病床機能
- (2) 目標とする指標(案)

6 第1回三島医療・病床懇話会での意見

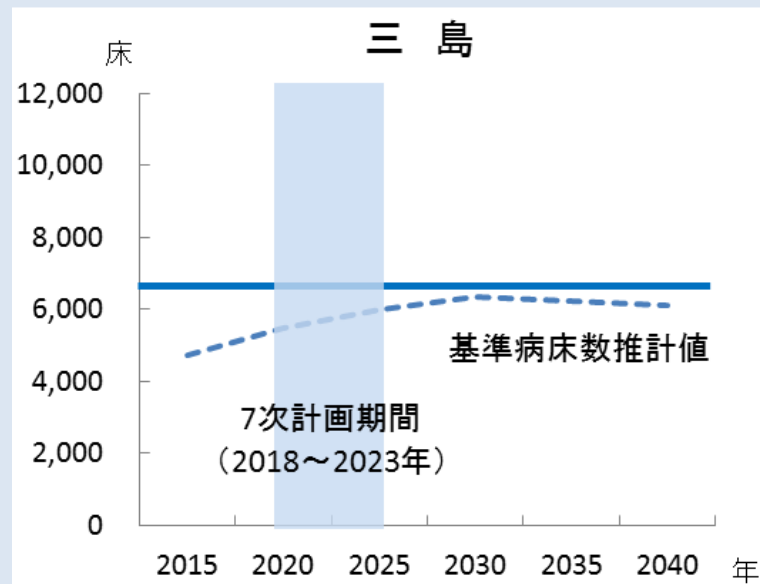
1 三島二次医療圏の概要 (1) 今後の医療需要の見込み

三島二次医療圏では、今後、2030年をピークに医療需要(特に回復期)が増加する見込み

● 病床機能ごとの医療需要の見込み(総計)



● 基準病床数の見込み



基準病床数の将来見込みでは、2030年においても、既存病床数に達しない見込み。

	2013年	2025年		2030年		2035年		2040年	
	(人/日)	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年
高度急性期	639	717	1.12	724	1.13	716	1.12	707	1.11
急性期	1,759	2,309	1.31	2,415	1.37	2,400	1.36	2,365	1.34
回復期	1,750	2,507	1.43	2,676	1.53	2,660	1.52	2,606	1.49
慢性期	1,743	2,217	1.27	2,435	1.40	2,426	1.39	2,359	1.35
合計	5,891	7,750	1.32	8,250	1.40	8,202	1.39	8,037	1.36

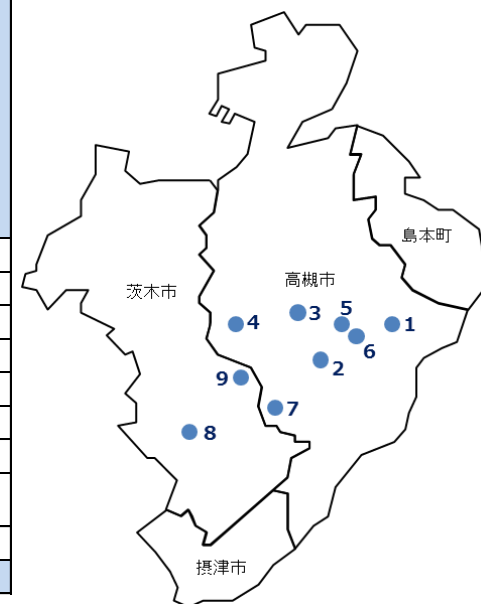
参照：第7次大阪府医療計画
一部改編

1 三島二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要①

三島二次医療圏では公的医療機関等2025プラン対象病院が5病院となっている

●主な医療施設の状況

所在地	病院名	新公立病院改革プラン にかかると補足調査対象	公的医療機関等2025プラン 対象病院	特定機能病院	地域医療支援病院	社会医療法人開設病院	公的医療機関等	府立病院機構	在宅療養後方支援病院	がん診療拠点病院	三次救急医療機関	災害拠点病院	特定診療災害医療センター	周産期母子医療センター	感染症指定医療機関	結核病床を有する病院	エイズ治療拠点病院
高槻市	医療法人東和会第一東和会病院								○								
	大阪府三島救命救急センター										○	○					
	社会医療法人祐生会みどりヶ丘病院					○			○								
	高槻赤十字病院		○		○		○			○							
	社会医療法人愛仁会高槻病院		○		○	○			○	○				□			
	大阪医科大学附属病院		○	○						□		○		○			○
	社会医療法人仙養会北摂総合病院		○		○	○					○						
茨木市	社会福祉法人恩賜財団済生会支部大阪府済生会茨木病院		○				○										
	医療法人恒昭会藍野病院								○								
合計		0	5	1	3	3	2	0	4	4	1	2	0	2	0	0	1



※ 「がん診療拠点病院」の□印は「地域がん診療連携拠点病院(国指定)」、○印は「大阪府がん診療拠点病院(府指定)」を示す。

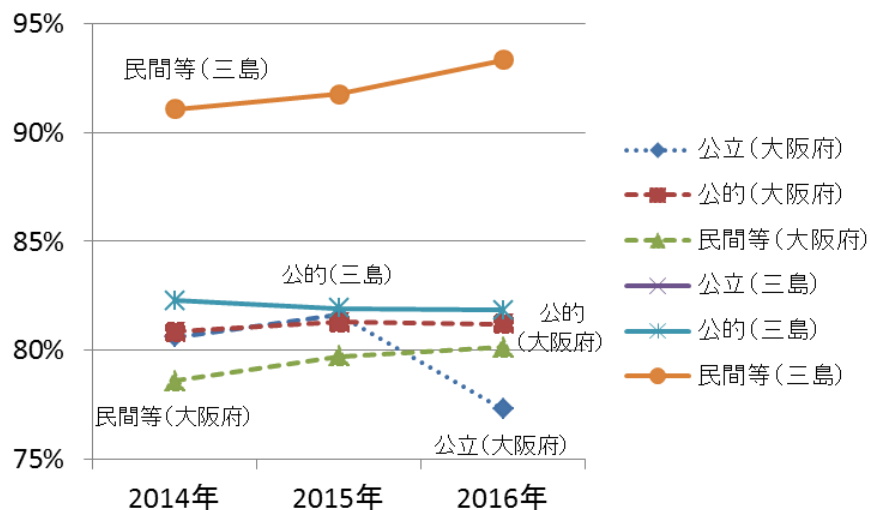
※ 「周産期母子医療センター」の□印は「総合周産期母子医療センター」、○印は「地域周産期母子医療センター」を示す。

1 三島二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要②

過去3か年に三島二次医療圏では、民間等において病床稼働率は上昇傾向にあり、平均在院日数は民間等、公的共に横ばい状態である

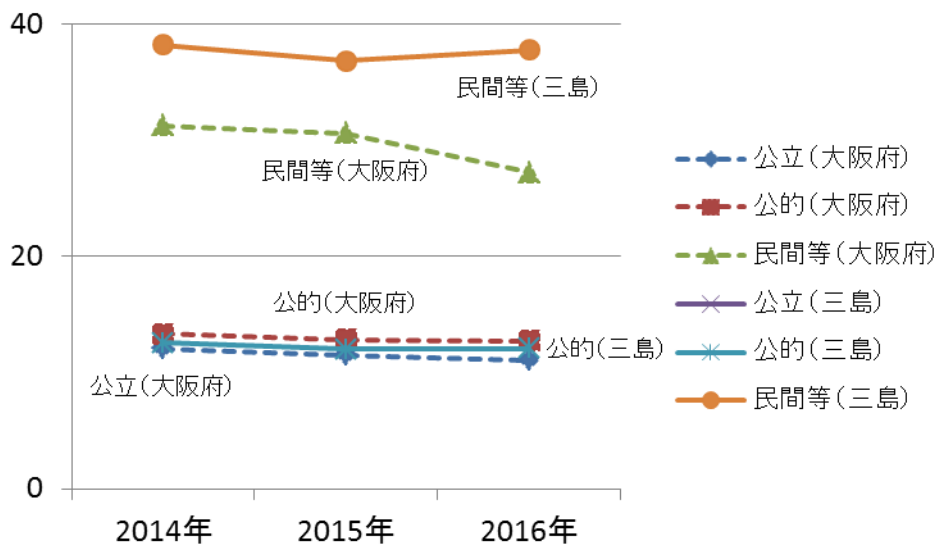
1 病床の運用状況

● 病床稼働率 (在院患者数、許可病床数から算出)



※各年6月30日から翌7月1日まで

● 平均在院日数 (在院、新規入院、退院患者数から算出)



※各年6月30日から翌7月1日まで

参照：【資料2-2】病院ごとの医療機能一覧 (病院プラン等結果)

2 各病院の医療機能一覧(資料2-2)

3 各病院の非稼働病床への対応状況一覧(資料2-2)

① 三島二次医療圏の概要 (3) 診療実態の分析の結果①

入院基本料の看護配置が多くなるほど、(重症)急性期と分類される病棟の割合が高くなる

● 急性期報告 病床数(病院)

	病床数	割合
(重症)急性期	1,872	71.9%
地域急性期	732	28.1%
欠損値	588	
計	3,192	

● (参考) 高度急性期報告 病床数 (病院)

	病床数	割合
(重症)急性期	779	92.7%
地域急性期	61	7.3%
欠損値	47	
計	887	

● 診療報酬別の急性期病床の分析結果

診療報酬別区分	分析病床数					(参考) 不明病床数
	合計	(重症)急性期		地域急性期		
		病床数	割合	病床数	割合	
特定機能病院一般病棟入院基本料等	219	219		0		0
一般病棟7対1	1,341	1,293	96.4%	48	3.6%	365
一般病棟10対1	500	318	63.6%	182	36.4%	42
一般病棟13対1	94	0	0.0%	94	100.0%	56
一般病棟15対1・特別	273	0	0.0%	273	100.0%	0
地域包括ケア病棟入院料・入院管理料	42	42		0		0
緩和ケア病棟入院料	60	0	0.0%	60	100.0%	0
障害者施設等・特殊疾患病棟入院料	75	0		75		56
合計	2,604	1,872	71.9%	732	28.1%	588

参照：【資料2-3】病棟ごとの医療機能一覧（病床機能報告暫定結果）

1 三島二次医療圏の概要 (3) 診療実態の分析の結果②

病床数の必要量における回復期機能を担う病床数の確保には、三島二次医療圏で約4%程度同機能への転換が必要と推計できる

● 病床機能報告と病床数の必要量の比較

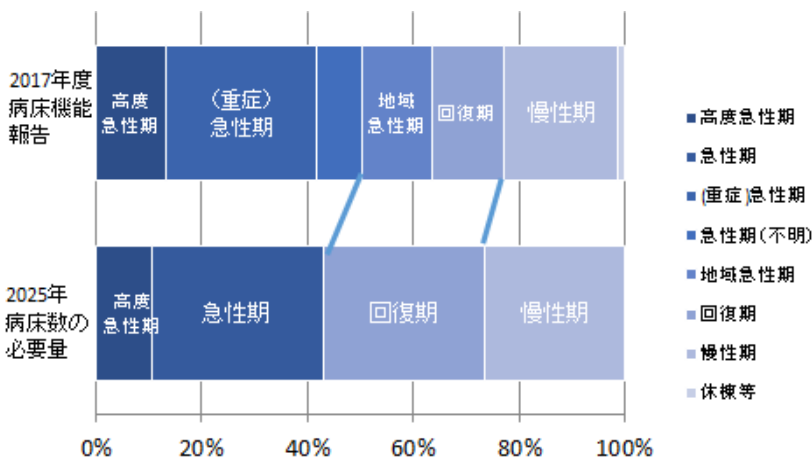
(単位:床)

区分	年度	高度急性期	急性期	(重症)急性期	急性期(不明)	地域急性期	回復期	慢性期	休棟等	未報告等	合計
病床数の必要量	2013	852	2,255				1,944	1,895			6,946
病床機能報告	2014	947	3,296				858	1,494	15	121	6,731
病床機能報告	2015	957	3,193				886	1,545	74	37	6,692
病床機能報告	2016	942	3,214				811	1,524	79	84	6,654
病床機能報告	2017	887		1,872	588	866	913	1,426	84	—	6,636
病床数の必要量	2025	956	2,961				2,786	2,410			9,113
				合計 3,326							

※有床診療所における急性期報告病床は、地域急性期に分類。

● 病床機能報告 (2017年度) と病床数の必要量 (2025年) の割合の比較

区分	年度	高度急性期	急性期	(重症)急性期	急性期(不明)	地域急性期	回復期	慢性期	休棟等	未報告等
病床機能報告	2017	13.4%		28.2%	8.9%	13.1%	13.8%	21.5%	1.3%	—
病床数の必要量	2025	10.5%	32.5%				30.6%	26.4%		



サブアキュート・ポストアキュート・リハビリ機能の現状と将来の予測

① 病床機能報告

地域急性期 + 回復期 26.8%

② 病床数の必要量

回復期 30.6%

割合の差 3.8%

2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (1) 病床の現状

「特定機能病院一般病棟入院基本料等」は、人口10万当たりの病床数、病床稼働率が府平均より高いが、他は府平均より低くなっている

●入院基本料・特定入院料別報告

入院料区分	三島		大阪府	
	病床数	人口10万当たり 病床数	病床数	人口10万当たり 病床数
救命救急入院料・特定集中治療室管理料等	136床	18床	2,071床	23床
小児入院医療管理料	103床	14床	1,578床	18床
特定機能病院一般病棟入院基本料等	911床	122床	4,945床	56床
一般病棟7対1	1,790床	240床	28,048床	317床
(再掲) 一般病棟7対1【高度急性期での報告】	25床	3床	5,695床	64床
(再掲) 一般病棟7対1【急性期での報告】	1,706床	228床	22,353床	253床
一般病棟10対1	542床	73床	9,147床	103床

●病床の利用状況

入院料区分	三島		大阪府	
	病床稼働率	平均在院日数	病床稼働率	平均在棟日数
救命救急入院料・特定集中治療室管理料等	57.1%	4.1	70.5%	4.7
小児入院医療管理料	68.1%	6.5	74.4%	6.7
特定機能病院一般病棟入院基本料等	90.4%	12.9	80.7%	12.2
一般病棟7対1	61.7%	10.9	82.3%	10.9
(再掲) 一般病棟7対1【高度急性期での報告】	69.2%	8.6	84.8%	8.8
(再掲) 一般病棟7対1【急性期での報告】	63.7%	11.0	81.7%	11.5
一般病棟10対1	71.0%	15.9	75.6%	14.9

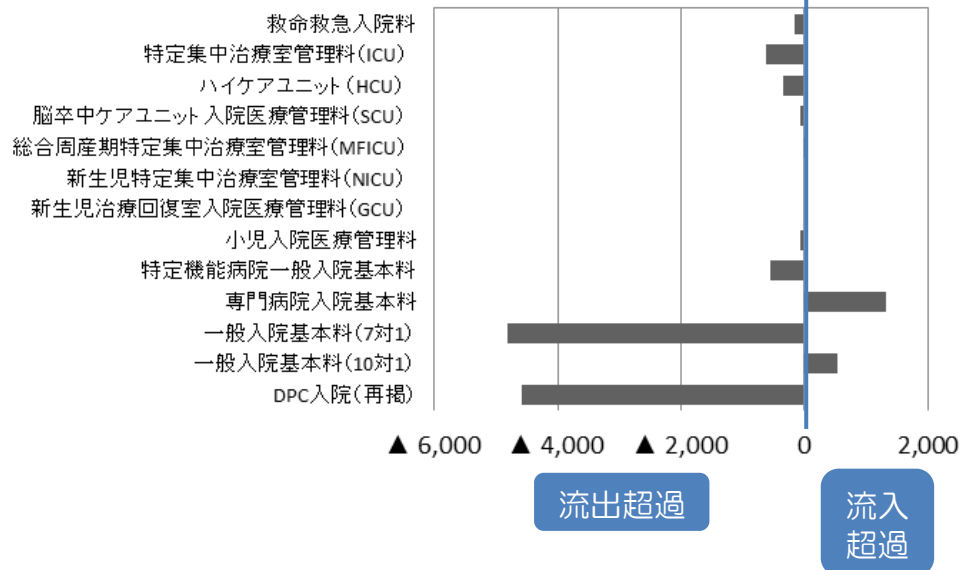
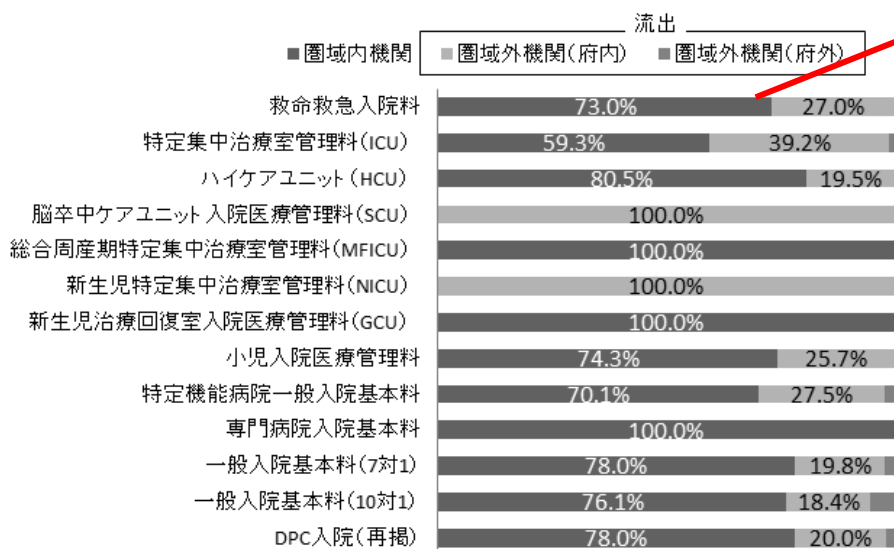
2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (2) 患者受療・医療提供状況 (NDB) ①

一般病棟7対1入院基本料は、流出超過となっているが、自己完結率は、約8割と高い値となっている

1 入院基本料別の状況

(1) 患者受療状況

救命救急入院料にかかる自己完結率は「73.0%」

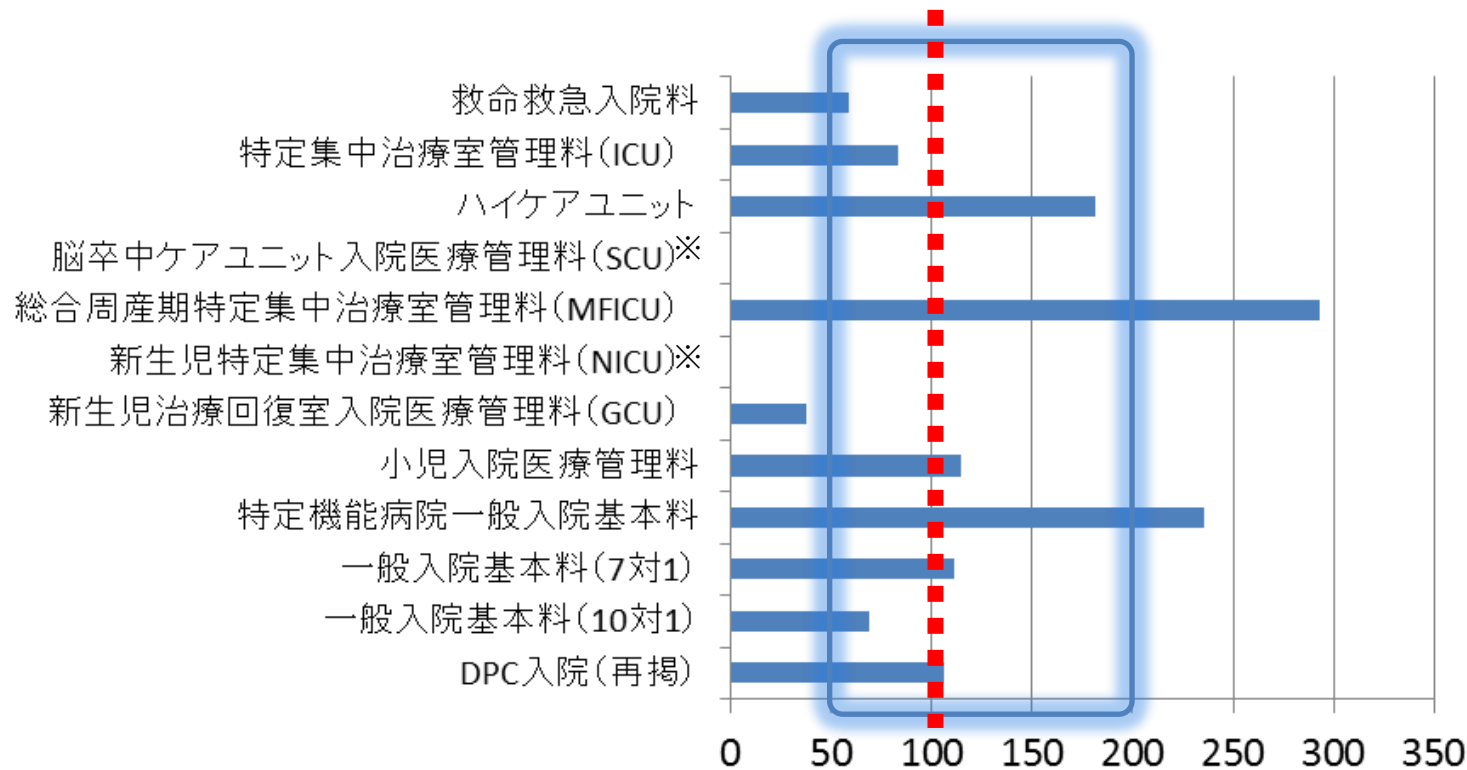


参照：【資料2-4】三島二次医療圏における患者受療状況 (NDBデータ)

2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (2) 患者受療・医療提供状況 (NDB) ②

多くの入院料は、SCRが50～200の範囲内に含まれるが、一部入院料において50を下回っている

(2) 医療提供状況 (SCR)



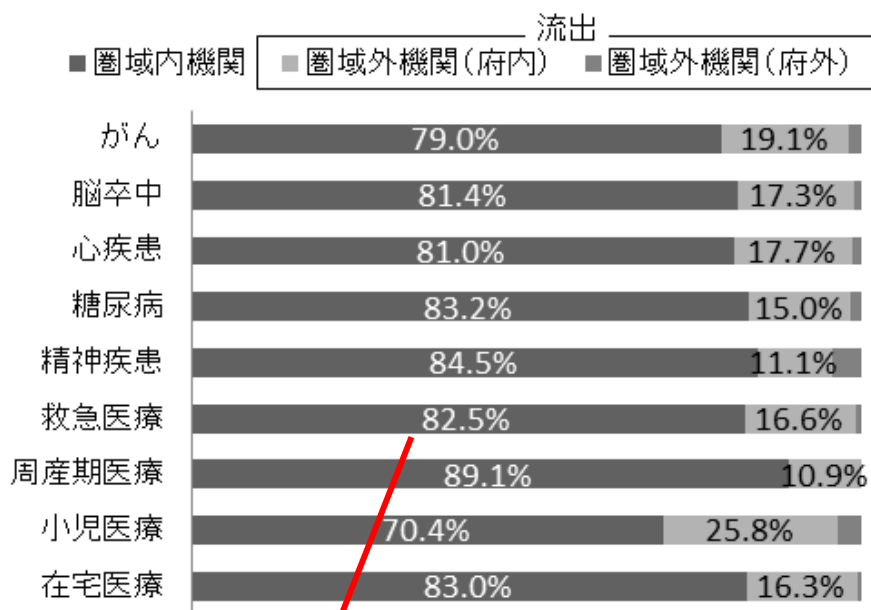
※SCU・NICUは、入院料は、取得している医療機関がないため未算出

参照：【資料2-5】三島二次医療圏における医療提供状況 (NDBデータ)

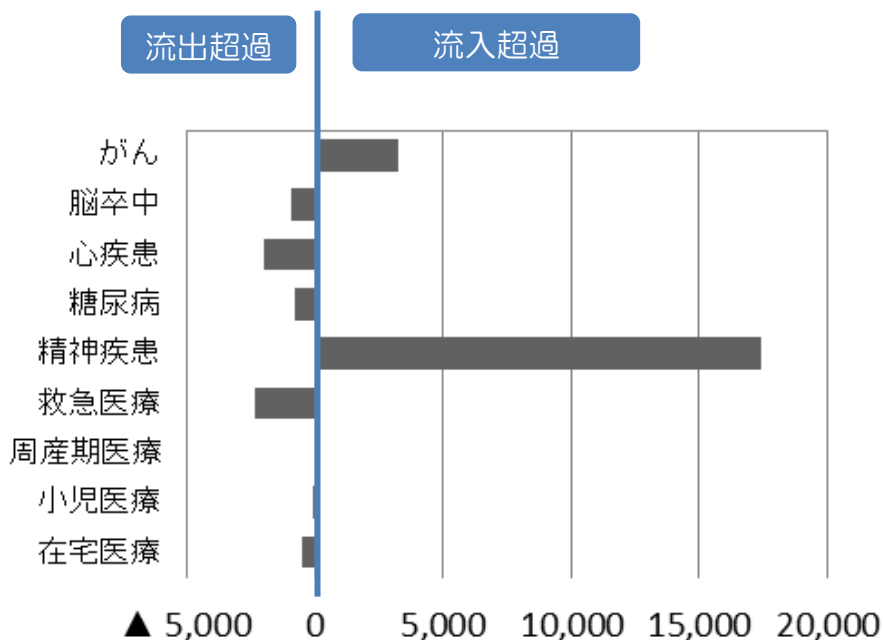
疾病・事業の自己完結率は比較的高く、精神疾患においては、流入超過の傾向が特に見られる

2 5疾病4事業・在宅医療

(1) 患者受療状況



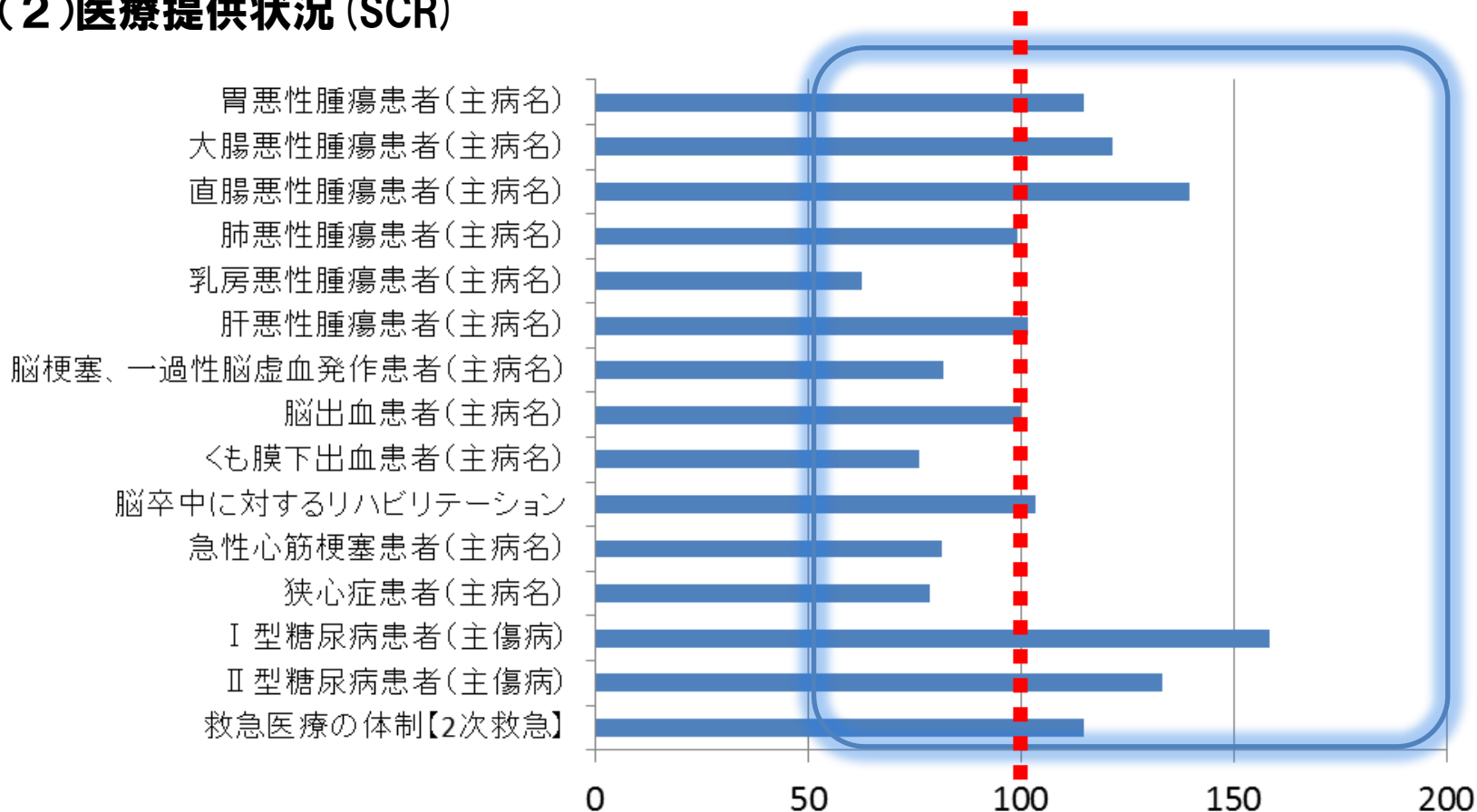
救急医療にかかる自己完結率は「82.5%」



参照：【資料2-4】三島二次医療圏における患者受療状況 (NDBデータ)

多くの疾患は、SCR(50~200)範囲に含まれており、医療提供実績が極端に低い疾患は見受けられない

(2)医療提供状況 (SCR)

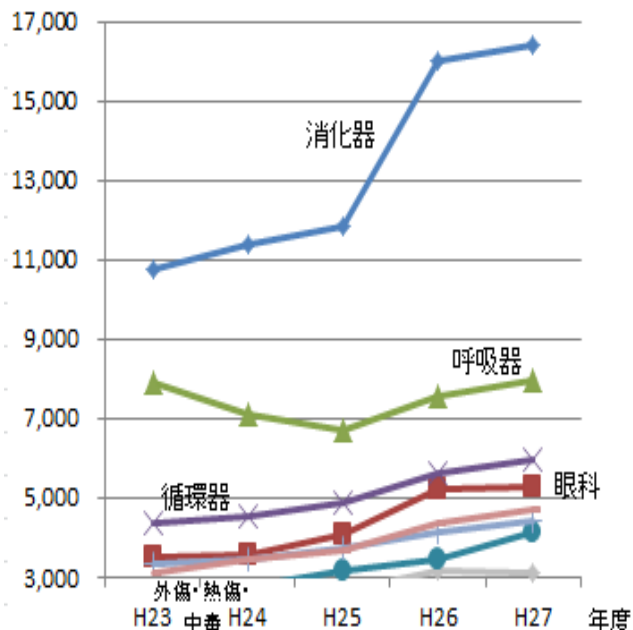


参照：【資料2-5】三島二次医療圏における医療提供状況 (NDBデータ)

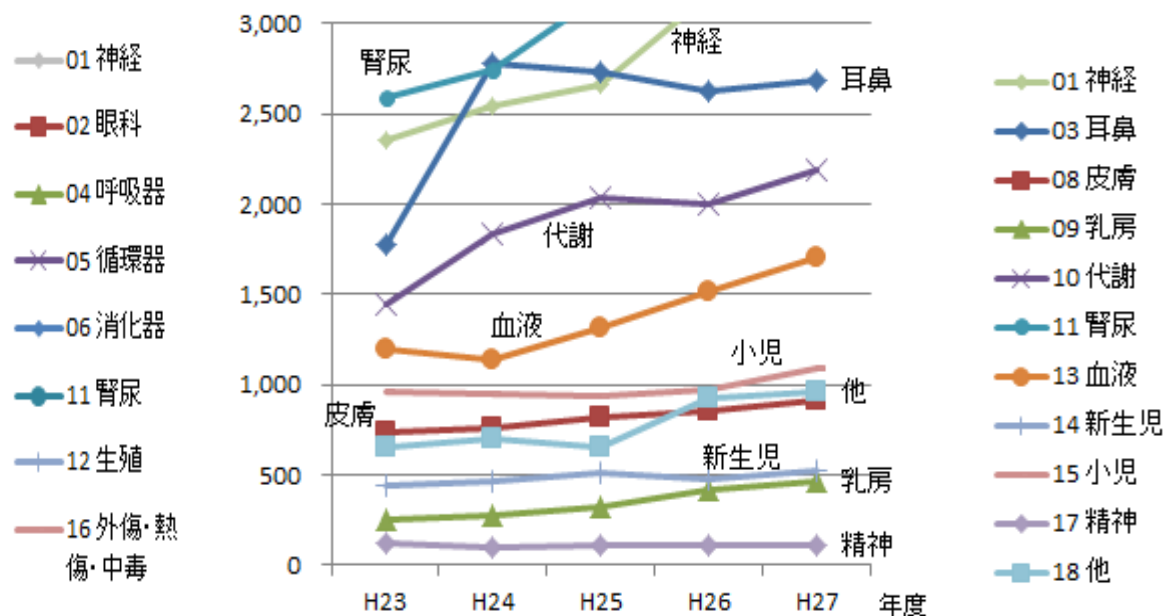
2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (3) MDC別診療実績の推移(DPC)

部位別の診療実績から、消化器が急増し、その他多くの部位において需要は増加傾向で推移している

● 診療実績3,000件以上



● 診療実績3,000件未満



参照：【資料2-6】DPC参加病院と三島二次医療圏におけるMDC別診療実績の推移

2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (4) 現状と課題のまとめ

○入院料の多くは、

府平均より人口10万人当たりの病床数が低くなっており、
一部入院基本料については、流出超過傾向にある。

○今後の医療需要増加に対応していくためには、他圏域との流出入の状況等に
留意し、急性期の医療提供体制の在り方について検討していく必要がある。

3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (1) 病床の現状

他の入院基本料と比較して、一般病棟15対1入院基本料等の病床稼働率は低くなっている

●入院基本料・特定入院料別報告

入院料区分	三島		大阪府	
	病床数	人口10万当たり 病床数	病床数	人口10万当たり 病床数
一般病棟13対1	150床	20床	2,277床	26床
一般病棟15対1・特別	273床	37床	3,427床	39床
地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料	181床	24床	2,434床	28床
回復期リハビリテーション病棟入院料	604床	81床	5,912床	67床
緩和ケア病棟入院料	108床	14床	593床	7床

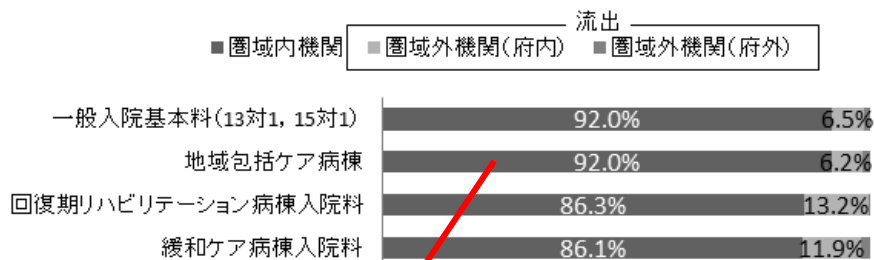
●病床の利用状況

入院料区分	三島		大阪府	
	病床稼働率	平均在院日数	病床稼働率	平均在院日数
一般病棟13対1	85.8%	21.4	71.4%	21.0
一般病棟15対1・特別	65.0%	31.4	69.3%	35.8
地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料	79.3%	32.8	77.7%	24.0
回復期リハビリテーション病棟入院料	96.4%	60.0	89.6%	61.4
緩和ケア病棟入院料	70.0%	44.9	70.7%	25.2

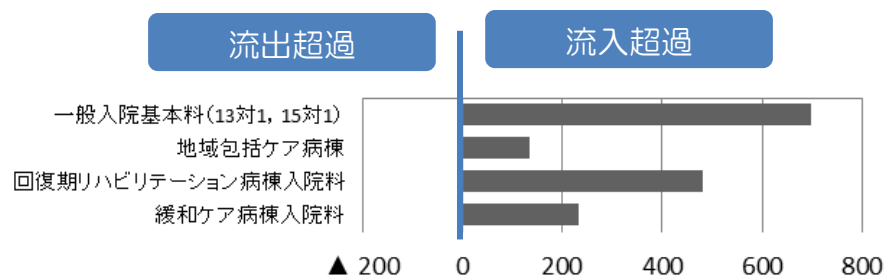
全ての入院基本料で流入超過の状況にあり、SCRも50を上回っている

○入院基本料別の状況

(1)患者受療状況

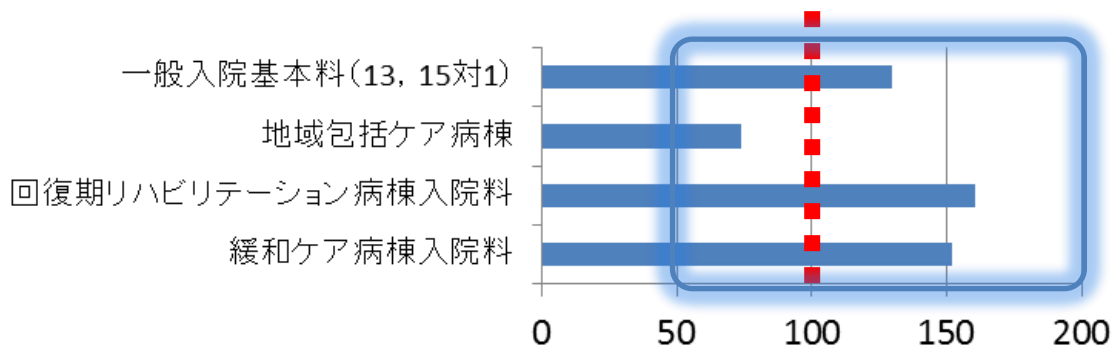


地域包括ケア病棟の自己完結率は「92.0%」



参照：【資料2-4】三島二次医療圏における患者受療状況（NDBデータ）

(2)医療提供状況(SCR)



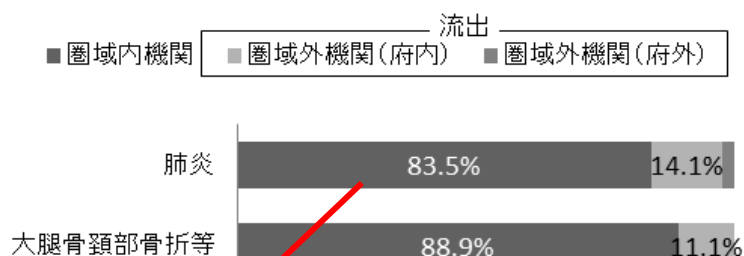
参照：【資料2-5】三島二次医療圏における医療提供状況（NDBデータ）

3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)②

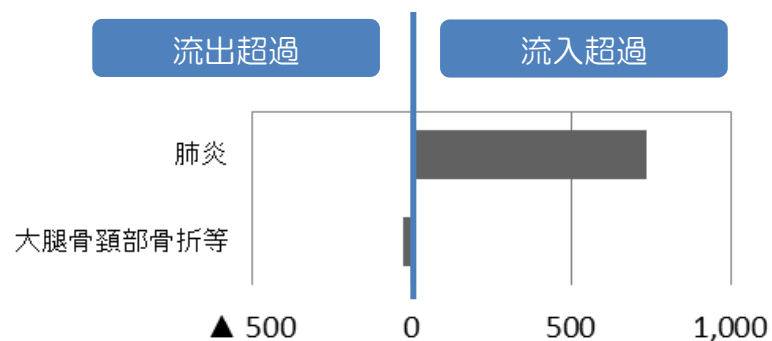
肺炎・大腿骨頸部骨折について、自己完結率(圏域内の医療機関で入院する割合)は、80%以上であり比較的高い値となっている

○肺炎・大腿骨頸部骨折

(1) 患者受療状況

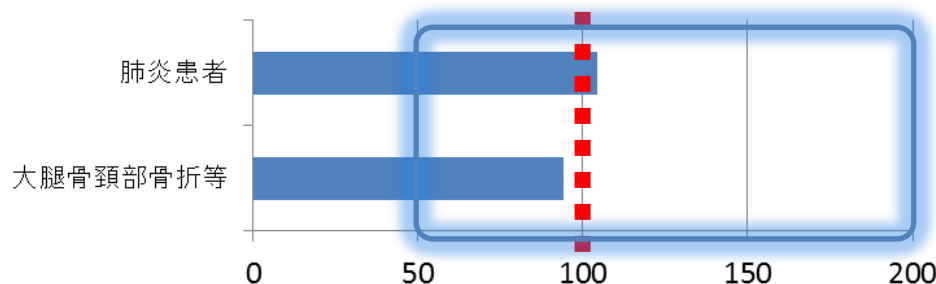


肺炎の自己完結率は「83.5%」



参照：【資料2-4】三島二次医療圏における患者受療状況 (NDBデータ)

(2) 医療提供状況 (SCR)



参照：【資料2-5】三島二次医療圏における医療提供状況 (NDBデータ)

3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (3) 現状と課題のまとめ

○他の入院基本料と比較して、一般病棟15対1入院基本料等の病床稼働率は低くなっている。

今後の回復期機能の需要の増加に対応していくためには、一般病棟15対1入院基本料等の在り方も含め、検討していく必要がある。

4 長期療養(慢性期)の概要 (1) 病床の現状

多くの入院料で、人口10万当たりの病床数は府平均より低い、
病床稼働率は府平均よりも高い値となっている

●入院基本料・特定入院料別報告

入院料区分	三島		大阪府	
	病床数	人口10万当たり 病床数	病床数	人口10万当たり 病床数
療養病棟入院基本料 1	700床	94床	14,414床	163床
療養病棟入院基本料 2	86床	12床	2,351床	27床
介護療養病床	71床	10床	1,788床	20床
障害者施設等・特殊疾患病棟入院料	807床	108床	5,881床	67床

●病床の利用状況

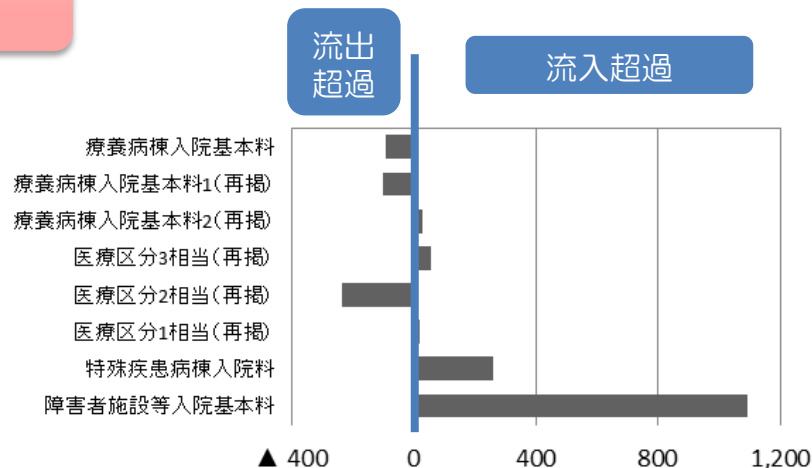
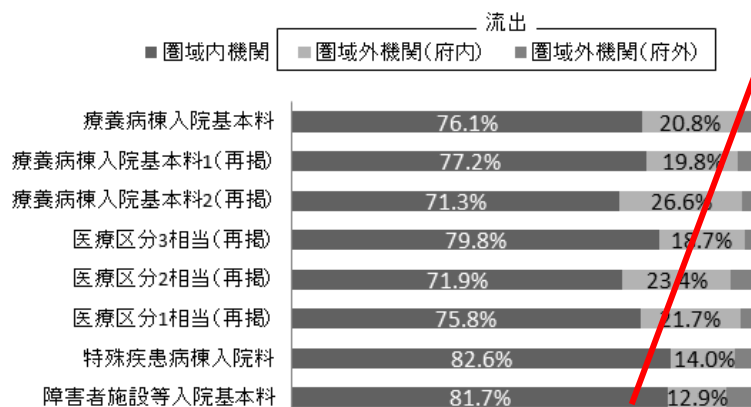
入院料区分	三島		大阪府	
	病床稼働率	平均在院日数	病床稼働率	平均在院日数
療養病棟入院基本料 1	93.1%	297.4	89.6%	219.5
療養病棟入院基本料 2	96.0%	222.4	81.3%	203.2
介護療養病床	95.8%	413.7	93.0%	339.0
障害者施設等・特殊疾患病棟入院料	93.8%	78.9	86.7%	95.4

4 長期療養(慢性期)の概要 (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)

多くの入院基本料において、自己完結率が高く、SCR(50~200)範囲に含まれている

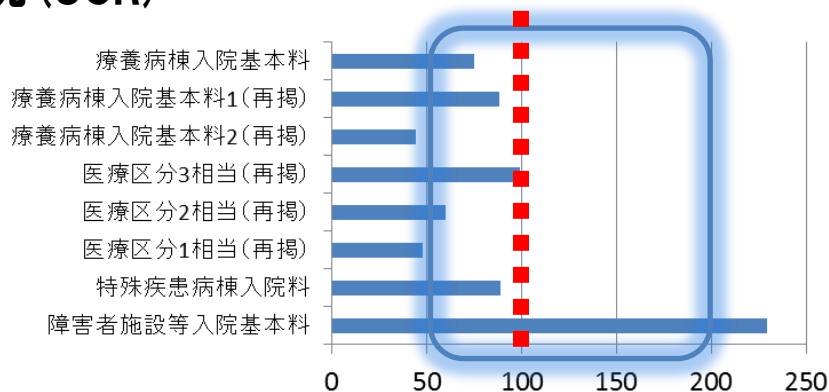
○入院基本料別の状況 (1)患者受療状況

障害者施設等入院基本料の自己完結率は「81.7%」



参照：【資料2-4】三島二次医療圏における患者受療状況 (NDBデータ)

(2)医療提供状況 (SCR)



参照：【資料2-5】三島二次医療圏における医療提供状況 (NDBデータ) 20

4 長期療養(慢性期)の概要(3) 現状と課題のまとめ

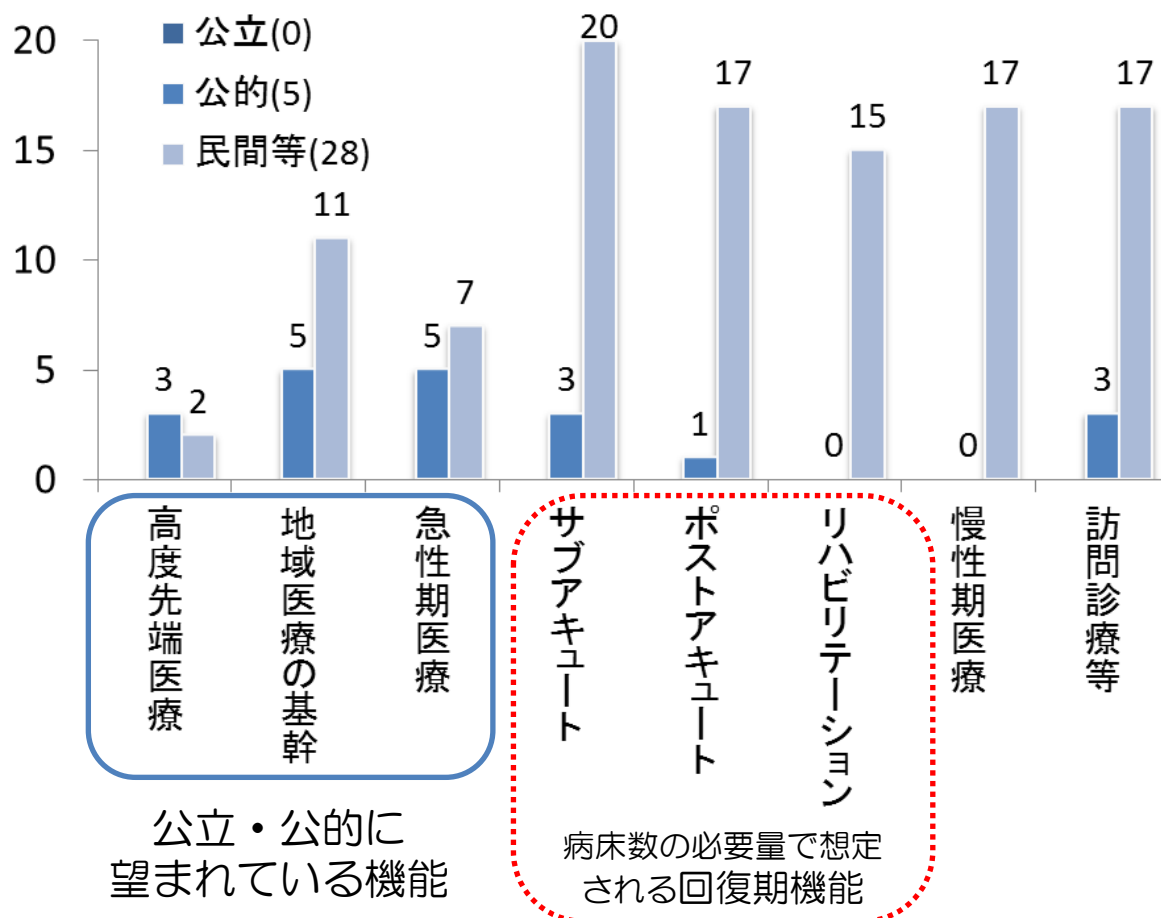
○障害者施設等入院料については、病床数が府平均より高くなっているものの、他圏域からの流入の可能性が高く、病床稼働率が90%を超えている状況となっている。

○一方、多くの入院料において、病床稼働率は府平均よりも高い値となっているものの、人口10万当たりの病床数は府平均より低い値となっており、今後の需要の増加に対応した、病床のあり方を検討していく必要がある。

5 将来のあるべき医療体制に向けて (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能①

回復期や慢性期、訪問診療等は多くの民間医療機関が、担っていききたいと考えている

1 病院自身が将来担うべきと回答している病床機能

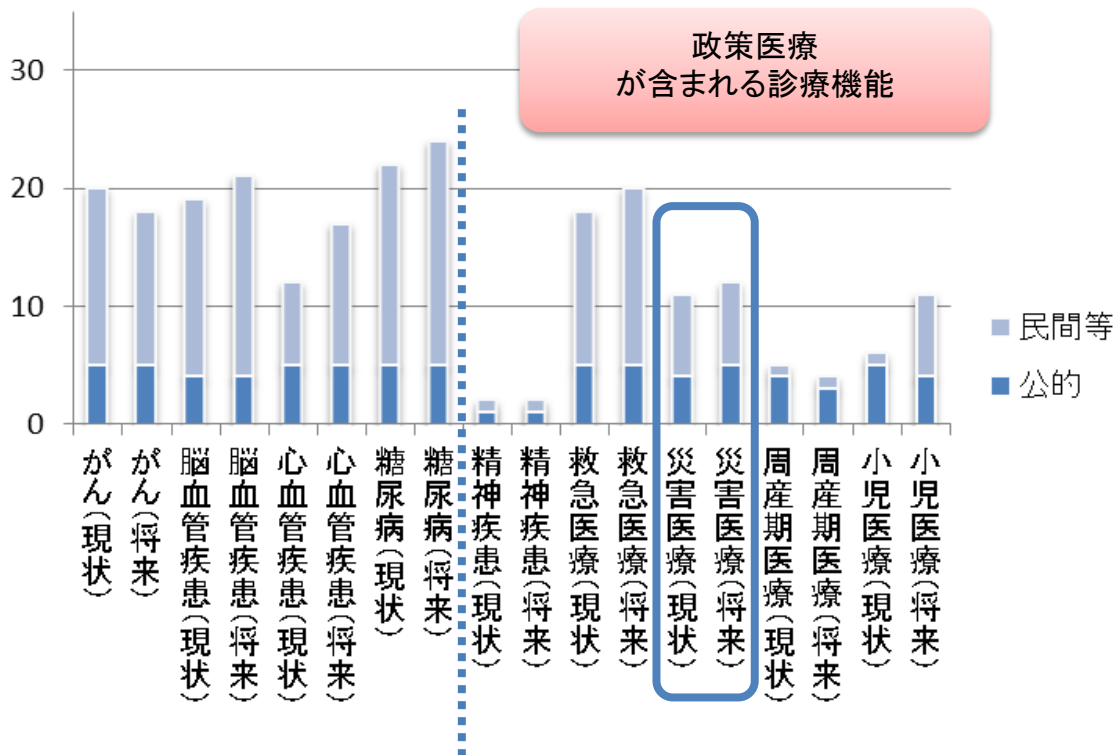


参照：【資料2-2】病院ごとの医療機能一覧（病院プラン等結果）

5 将来のあるべき医療体制に向けて (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能②

政策医療が含まれる診療機能では、公的は災害医療において、民間等は救急・小児医療等で、現状よりも将来担うべきと回答した医療機関数が多い

2 将来担うべきと回答している診療機能と現状との比較※



※「現状」は、第7次大阪府医療計画の策定にあたり、医療機能情報提供制度に係る医療機関調査等の結果をとりまとめたもの。
「将来」は、特に定義を定めていないため、比較には留意が必要。

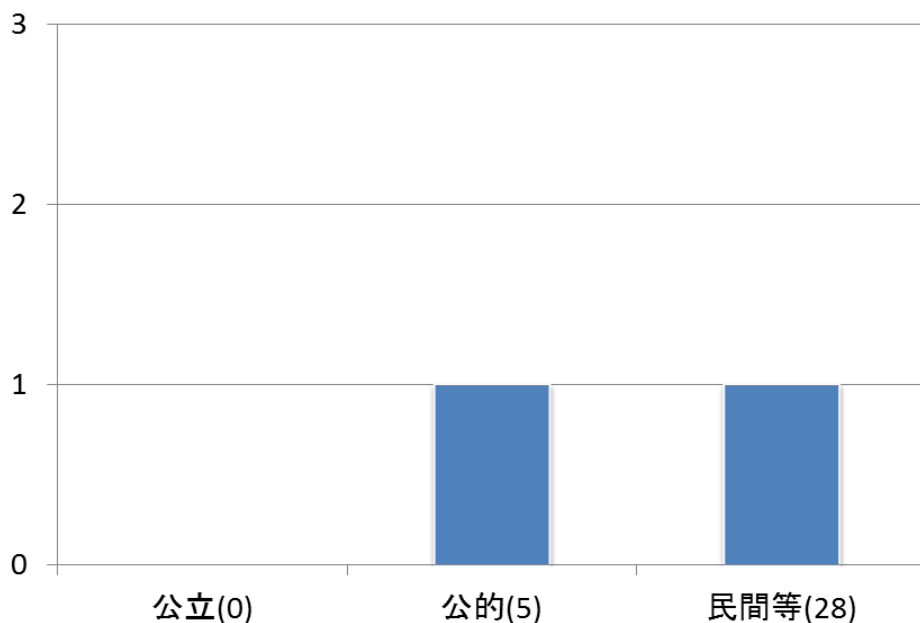
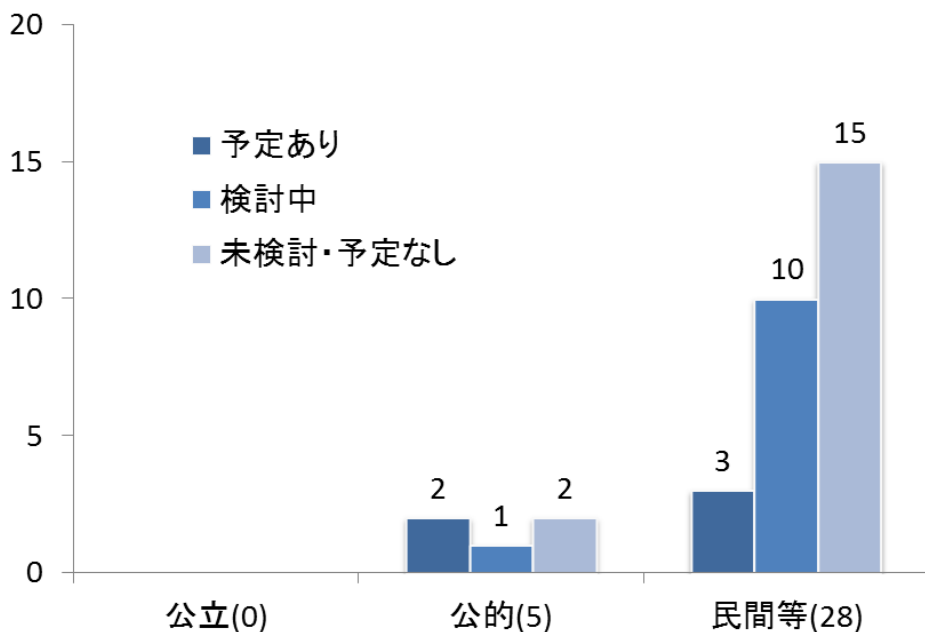
5 将来のあるべき医療体制に向けて (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能③

2025年に向けた病床機能・病床数等の変更について、公的、民間等ともに半数近くが、予定あり、もしくは検討中となっている

3 2025年に向けた各病院のプランのまとめ

● 2025年に向けた病床機能・病床数等の変更
予定の有無

● 地域医療介護総合確保基金（病床転換に対する
一部経費の補助金）の活用の希望

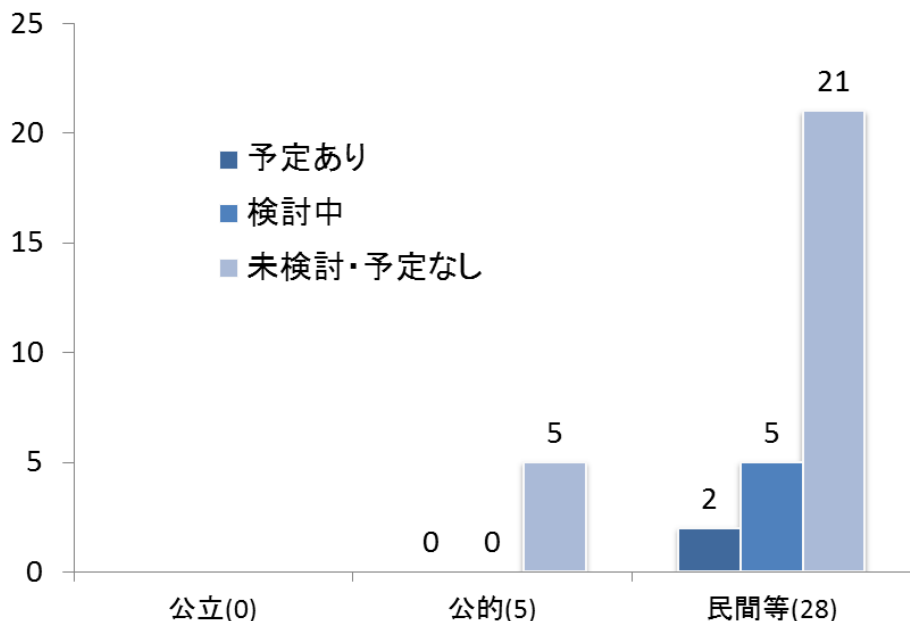


参照：【資料2-2】病院ごとの医療機能一覧（病院プラン等結果）

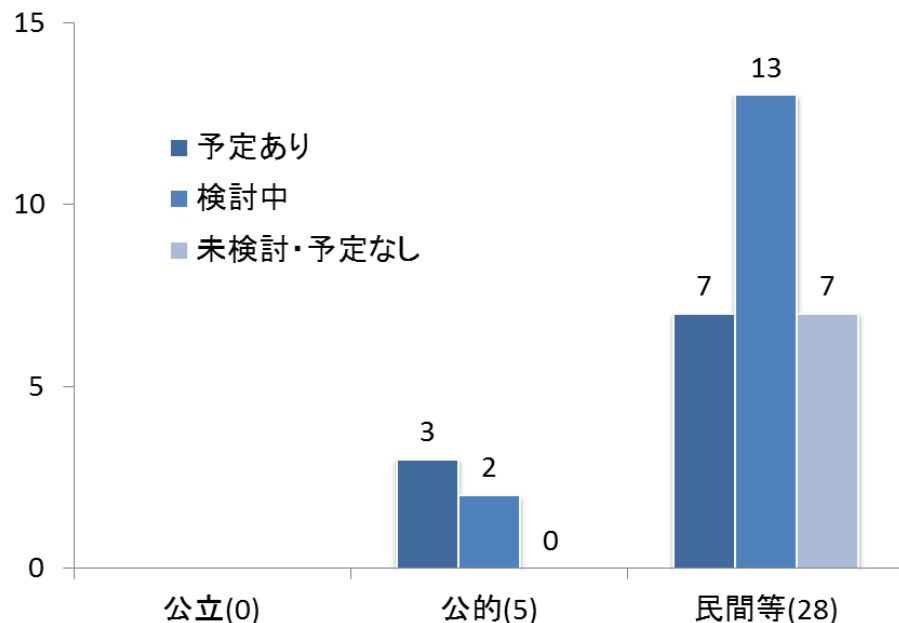
5 将来のあるべき医療体制に向けて (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能④

2025年に向けた建物・設備の整備・改修について、公的ではすべてが、民間等も半数以上が、予定あり、もしくは検討中となっている

● 2025年に向けた診療科の見直しの予定の有無



● 2025年に向けた建物・設備の整備・改修予定の有無



参照：【資料2-2】病院ごとの医療機能一覧（病院プラン等結果）

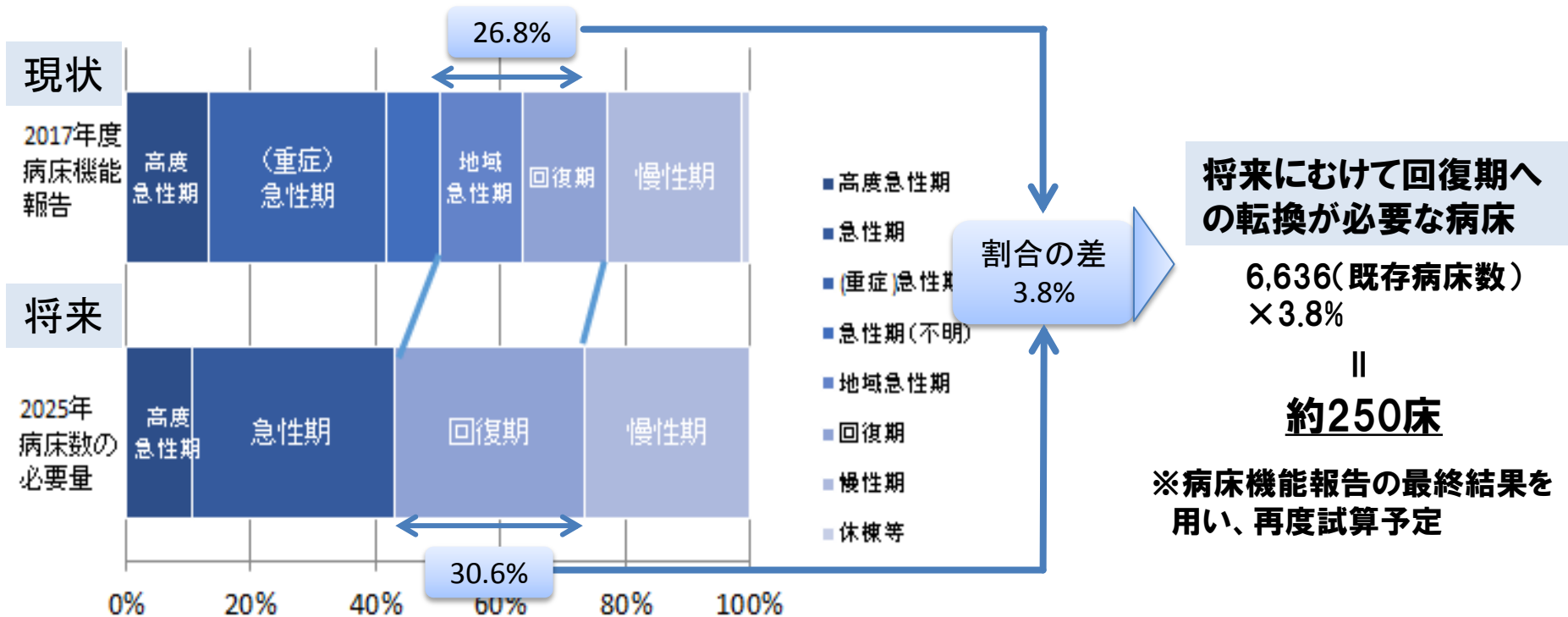
4 2025年までに各病院が検討している医療機能・病床機能一覧(資料2-2)

5 将来のあるべき医療体制に向けて（1）2025年に各病院が検討している医療機能・病床機能のまとめ

- 多くの民間医療機関が、回復期や慢性期、訪問診療等を担っていきたいと考えており、自主的に回復期、慢性期への移行がすすむ可能性がある
- 政策医療が含まれる診療機能については、公的は災害医療、民間は救急・小児医療を現状よりも担うべきと考えている
- 病床機能・病床数等の変更、建物・設備の整備・改修についても公的、民間とも予定あり・検討中が半数以上となっている
- 今後の医療需要の変化に対応するためには、2025年に想定される病床機能区分別割合に近づくことが望まれるが、三島住民へ医療を提供している機関のうち圏域外の医療機関が担っている実情を留意しながら、自主的な病院の取組を支援していくことが重要である

5 将来のあるべき医療体制に向けて (2) 目標とする指標(案)

1 2025年に向け回復期(サブアキュート・ポストアキュート・リハビリ)機能への転換が必要と考えられる病床(暫定値)



- 2 圏域内の医療機関への入院割合
- 3 病床稼働率

指標について

- 回復期(サブアキュート・ポストアキュート・リハビリ)機能への転換が必要と考えられる病床割合を指標とする。現状と2025年の回復機能の病床割合の差が3.8%であることから、約250床の転換が必要。
- 病床機能報告の精度を高め、病床稼働率、休床病棟等の変化に留意し、周囲の圏域での医療提供体制の変化により、流出入の状況が変化していく可能性があるため、圏域外の担っている実情を含め経年的にデータを分析継続して行う。
- 2025年に向け多くの民間医療機関が回復期や慢性期、訪問診療等を担っていきたいと考えており、自主的な回復期、慢性期への移行を支援していく。